

学校教育目標	夢がわき 心もはずむ 西小っ子 (素直で心豊かな子 進んで学習する子 ねばり強くたくましい子)
目指す学校像	明るく楽しい学校 成果の見える学校 地域とともに歩む学校
重点目標	1 デジタル学習基盤を活用した新たな「学び方」「教え方」の進化・発展 2 カリキュラム・マネジメントの充実と「誰一人取り残さない教育」の実現 3 子どもたちが参画する学校運営協議会の実施と学校と家庭地域の連携・協働 4 すべての児童が安心して過ごせる教育環境の整備 5 教職員一人ひとりが同僚性を意識し何事にも挑戦し続ける雰囲気醸成

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学校自己評価							学校運営協議会による評価	
年度目標				年度評価			実施日 令和 年 月 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	(現状) ○全国学調では、国語で6ポイント、算数で4ポイント市平均より低い結果である。 ○市学調では、全教科において市平均を3~9ポイント下回っている。 (課題) ○国語では知識及び技能「言語文化に関する事項」、算数では「図形」「変化と関係」が弱い傾向にある。 ○iPad をフル活用したデジタルの力と体験や交流等のリアルな学びを支える実践が必要である。	・デジタル学習基盤を活用した学習者主体の学びの実現	①iPadをフル活用して、児童自ら学びをデザインできる仕組みを意図的に用意する。 ②授業観察を通じて「主体的・対話的で深い学び」の実践状況を把握し、成果や課題を共有する。	○児童アンケート「iPadを使って進んで学習に取り組むことができた」で肯定的回答90%以上 ○教員アンケート「学びの探究コンパスに意識し、授業を構想・実践したか」で肯定的回答80%以上				
		・他者との体験や交流がある「協働的な学び」の実践	①他者との対話を通して課題を解決するペア・グループ学習を積極的に取り入れる。 ②クラウドを他者とのコミュニケーションツールの一つとして活用する。	○教員アンケート「場面に応じてペアやグループ学習を効果的に取り入れたか」で肯定的回答80% ○児童アンケート「クラウド機能を十分に活用したか」肯定的回答70%				
2	(現状) ○カリキュラム・マネジメントに基づく余剰時間の管理と新たに生み出された時間の活用方法が定まっていない。 ○教科横断的な実践まで授業の質が高まっていない。 (課題) ○カリマネデザインマップが有効活用されていない。 ○地域との連携が図られていない。	・教育の量から質への転換	①カリマネデザインマップを更新し、自校の重点目標や特色を生かした教育を実践する。 ②地域の教育資源や人材とつながりがある児童主体的の学びを保障する。	○3月までに各学年のマップを見直し、学習内容の重なり等を踏まえた引き継ぎ資料を作成できたか。 ○各学年で発掘した教育資源や人材をストックし、リストを作成したか。				
		・PDCA サイクルの確立と教育効果の検証	①授業実践の軌跡を積み上げ、教育計画を不断に見直す。 ②教員が学校課題研修に主体的に参加することのできる体制づくりを行う。	○学年別研修によって、年間指導計画の見直し作業を行ったか。 ○自主研修を推奨し、自らテーマを決めて主体的に研修に取り組んだか。				
3	(現状) ○学校側がシナリオを作成し、それにそった形で学校運営協議会が開催されている。 ○熟議で出された意見を集約するに留まり、児童に落とし込んだり、保護者に協力を依頼したりしていない。 (課題) ○地域の教育資源や人材が授業等に参画する機会を計画的に位置付ける必要がある。 ○SNN との連携を深める必要がある。	・児童の自治的な活動の展開	①児童の思いや願いを学校運営協議会で発表し、学校と地域のあり方や未来について意見を交わす。 ②熟議によって、児童、教職員、地域それぞれの役割を明確にし、学校や地域での行動計画を立てる。	○学校と学校運営協議会(地域)が連携し、児童の声を生かした取組を実行することができたか。 ○行動を焦点化し、児童、教職員、地域が協働して計画を実行することができたか。				
		・スクールサポートネットワークの教育活動への参画	①SSN(各ボランティア)の活動状況を広く児童、教職員、地域に発信する。 ②SNNの方々に感謝の気持ちを伝えるイベントを児童が中心となって企画・運営する。	○学校地域連携 Co の役割が機能し、情報を適切に発信できたか。 ○児童会が企画・運営するイベントを年に2回以上実施することができたか。				
4	(現状) ○トラブルやいじめ(疑いを含む)には、事実関係を明確にし、組織的に対応している。 ○配慮を要する児童とその保護者に寄り添い、専門職や関係機関と連携しながら対応している。 (課題) ○児童一人ひとりの課題やニーズを的確に把握し、迅速かつ適切に、全教職員が同一歩調で対応する体制づくりが必要である。 ○Sola る一むの持続可能な活用と運営スタッフの確保、利用する児童への適切な指導支援を明確にする必要がある。	・いじめ、差別を許さない誰もが安心安全を感じる環境づくり	①教職員間の対話を活性化させる場面を設定し、配慮を要する児童等について確認し全体で情報共有を行う。 ②アンケート等の結果や面談等を通じて、児童の心の状態を把握し、専門職や保護者と連携した支援につなげる。	○教員学校評価「組織を動かし、報連相に基づく対応ができたか」で肯定的回答90% ○教員学校評価「教育相談日等を活用し、児童の抱える不安、保護者の要望等を把握し、適切に対応したか」で肯定的回答90%				
		・長期欠席、不登校傾向の児童へのサポート体制づくり	①児童とのコミュニケーションからニーズを把握し、誰一人取り残すことのない個別の支援を行う。 ②教職員、地域人材等の両面から支援計画を見直し、利用する児童への途切れない支援ができるようにする。	○児童の特性等を適切に把握し、分掌が有機的に機能する攻めの対策を講じたか。 ○人材の範囲が広がり、支援の機会を拡大することができたか。				
5	(現状) ○教職員の同僚性は安定している。 ○教職員が自身の資質向上に必要な研修を理解できず、参加する研修会を決めかねている。 ○キャリア navi と研修受講履歴を活用した対話に基づく受講奨励が全体に浸透していない。 (課題) ○キャリア navi、期待される役割等を意識した教育活動を展開する必要がある。 ○「教える」から「児童自ら学ぶ」へと授業の発想を転換する必要がある。	・キャリア navi と全国教員研修プラットフォームの活用	①研修履歴や自身のキャリア、強み・弱みを理解した上で自ら必要な研修を選び取る一連の流れを定着させる。 ②教員が管理職との対話や自らの振り返りを通じて、新たな学びへの意欲がより高まるよう指導助言する。	○教員がキャリア navi や全国教員研修プラットフォームを活用した研修を受講したか。 ○教員とのコミュニケーションから一人ひとりを認め、新しい学びへのモチベーションを高めることができたか。				
		・当初面談、達成状況面談の有効活用	①当初面談において、主体的・自律的な目標設定ができるよう助言する。 ②達成状況面談において、教員の自主的な取組を適切に評価し、自己肯定感が高まるよう配慮する。	○当初面談において自身の目標を明確にすることができたか。 ○達成状況面談において、教員自身がこれまでの努力をふり返り、次年度への意欲につなげることができたか。				